4	春日井	高森台中学校	カン　トシユキ 菅　利　行

分科会番号	8	分科会名	音楽

1　研究主題

生涯にわたって、音楽に自ら親しむことができる生徒の育成

～ 主体的・協働的に音楽を探究する活動を通して ～

2　主題設定の理由

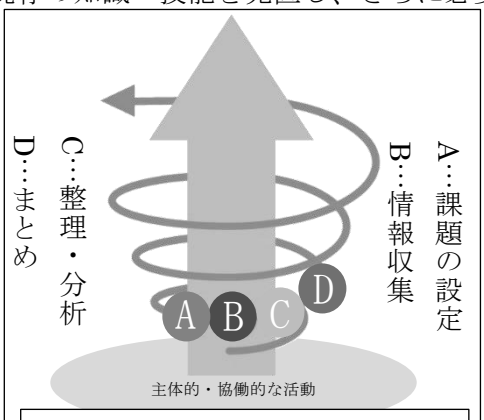
学習指導要領では、小・中・高等学校を通して育成を目指す資質・能力の一つとして「生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにする」ことが示されている。学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、学習の質を一層高める授業改善の取り組みを活性化していくことが求められる今、音楽の授業を今一度振り返る必要がある。

そこで、主体的・協働的な活動の中で、必要な知識・技能を確実に習得させ、それを基盤にして音楽表現を創り上げることができるようにする必要があると考えた。主体的・協働的に音楽を探究する活動を通して、基礎的な知識・技能を確実に習得させ、音楽表現や活動の楽しさを見出させることで、今まで以上に達成感や成就感を味わうことができ、意欲の高まりや学習の広がりを引き出すことができるだろう。こうした、生徒が主体となった授業こそ、音楽により親しむことにつながると考え、この主題を設定した。

3　研究の基本的な考え方

⑴　主体的・協働的な活動について

「主体的・協働的な活動」は、自ら課題を設定し、情報を収集し、整理・分析してまとめるという、基本となる学習過程のことである。主体的な態度や姿勢が生まれる学習課題を設定したり、生徒たちが習得した「知識・技能」を生かし、音楽を粘り強く創り上げる活動を意図的に設定したりすることで、音楽表現や音楽活動の楽しさを感じさせることを目指している。これを高橋（2022）は「『シンキング・サイクル』と名づけており、発展・分化していくと、学習指導要領等に示される各教科等における学習過程になるだろう」としている。シンキング・サイクルに基づく学習活動の結果得ることのできた達成感や成就感は、さらに深い音楽表現や学習を探究しようとする姿につながるだろう。また、既存の知識・技能を見直し、さらに必要な次の知識・技能に気づき、その習得を目指す意欲を高めることになり、生徒たちが輝く瞬間が増えるだろう。



シンキング・サイクルに基づく研究構想図

⑵　知識・技能の習得について

主体的・協働的に活動させるためには、それぞれの活動のために必要な知識・技能がある。それが不十分では、どんなに活動を工夫しても、学びに向かおうとする意欲の高まりや深まりは期待できない。そこで、どの教材においても活用することができる汎用的な力（音楽的な見方・考え方）を基盤に据え、繰り返し活用させることで確実な定着を目指す。その結果得られる達成感や成

就感、相互評価や教師の評価が子どもたちの自信となり、より主体的・協働的な活動につなげることができるだろう。

4　研究の仮説

Ⓐ　主体的・協働的な授業サイクルを展開させることで、生徒たちの意欲をかき立てることができるだろう。
⇒【主体的・協働的な活動】

Ⓑ　音楽的な見方・考え方を働かせながら音楽を捉えることを繰り返すことで、確実に知識・技能を定着させ、生徒たちに自信をもたせることができるだろう。
⇒【基礎的な知識・技能の習得】

5　実践

中学２年：器楽 ～ リコーダーの基本的な奏法を身に付けて合奏を楽しもう ～
「ラヴァーズ・コンチェルト」

１年次

Ⓐ　**主体的・協働的な活動**

● 生徒に自らの学習の計画を立てさせる個別適切な学び

Ⓑ　**基礎的な知識・技能の習得**

● 音色・強弱・テクスチュアを意識させた合奏づくり

時	学習の流れ	意欲の高まりにつながる手だて
第一時	曲と出会い、パートと目標、計画を立てる。 ① パートを決め、どんな合奏にしたいか考える。 ② 練習計画を立てる。	・ 自分の学習状況に合わせて、パートや目標、計画を立てさせる。
第二時	ポルタート奏法で明確に旋律を演奏する。 ・ 各チームの立てた練習計画にそって進める。 【例】 ① エクササイズに取り組む。 ② 個人で練習する。 ③ パートごとに練習する。 ④ 合奏する。 ⑤ 今日の練習を振り返る。	・ 練習で活用できる音源や動画を Classroom から視聴できるようにしておく。 ・ 基本的な奏法を確認させ、定着させる。

各自の学習の習熟度に合わせて、適切な練習に取り組ませる。Ⓐ

タンギングをすることで、旋律を明確に演奏することができることを理解させる。Ⓑ

第三時	パート間のバランスを意識して合奏する。 ・　各チームの立てた練習計画にそって進める。 「ここは主旋律と同じリズムだから、一体感を出した方がいいね。」	よりよい旋律の重なり方について理解させる。Ⓑ ・　合奏の際にどのパート（旋律）を優先させるとよいのか、Classroom から動画を視聴させ確認させる。 ・　タブレット端末で録音して、自分たちの演奏を振り返らせ、改善点を見いださせる。
第四時	曲想を工夫して合奏する。 ・　各チームの立てた練習計画にそって進める。 「下パートが四分音符で演奏する部分は、前に進むようにした方がもっとよくなりそうだよ。」	・　他のチームの演奏を聴き合わせ、アドバイスし合わせる。 それぞれの旋律にふさわしい強弱を工夫させる。Ⓑ

Ⓐ 主体的・協働的な活動 成果と課題

＜成果＞

学習の目標や方法（計画）を自ら考えさせたことで、個別最適化を図ることができた。特に、Classroom に練習で活用できる動画を掲載したことで、各々のペースで取り組むことができ、どの生徒も主体的に取り組むことにつながった。最終的に、満足な演奏ができた時の達成感に満ち溢れた姿は、こちらも嬉しく感じた。

＜課題＞

計画の段階から、完成した姿をイメージして、グループで協働することができたが、自分のことに集中して、仲間の演奏に気を配ることができない生徒もいたので、グループの編成の仕方を再考する必要がある。

Ⓑ 基礎的な知識・技能の習得 成果と課題

＜成果＞

音楽を形づくっている要素がどうなっているのかに注目させることで、美しい音色のつくり方や旋律の重ね方などをグループで話し合いながら習得することができた。特に、音色に関する基礎練習の動画を Classroom に掲載したことで、自ら関係性に気づき、その動画で何度も練習する姿が見られた。

＜課題＞

大まかな学習の流れを示し、その時間ごとに身につけさせたい知識・技能を明確に示したが、それを意識して練習することができたグループが半数程度だった。習得させたい知識・技能の提示の仕方を再考する必要がある。

次年度への展望

自ら課題を設定し、学習方法を考えさせて取り組ませる手立ては有効であったので、より協働的な学びへと発展していくように、グループの組み方や活動の方法を考えていきたい。また、音楽的な見方・考え方を働かせながら、課題に必要な知識・技能を習得させる手立ても有効であったので、より深く考えることができるように、単元の課題やその時間の課題の提示の仕方や各自の学習状況の把握のさせ方、参考資料の提示の仕方を考えていきたい。

中学３年：歌唱 ～ 全体の響きや各声部の役割を生かして、表現を工夫しよう ～

「足跡」

２年次

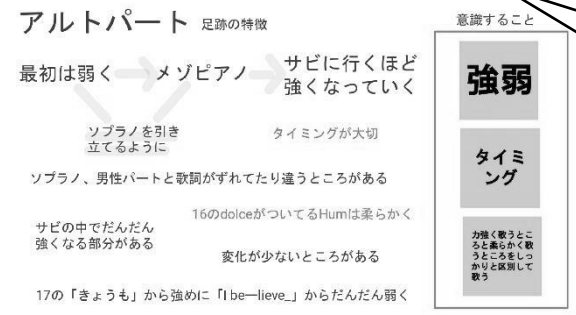
Ⓐ 主体的・協働的な活動

● シンキング・サイクルに基づいた個別最適な学び

Ⓑ 基礎的な知識・技能の習得

● 音色・旋律・テクスチュア・強弱を意識させた合唱づくり

時	学習の流れ	意欲の高まりにつながる手だて
第一時	曲と出会い、パートと目標、計画を立てる。 ① パートを決め、どんな合唱にしたいか考える。 ② 練習計画を立てる。	・ 自分の学習状況に合わせて、パートや目標を決め、練習計画を立てさせる。
第二・三時	曲にふさわしい表現を考え、必要な技能を身につける。 ・ 各パートの立てた練習計画にそって進める。 【例】 ① 発声練習に取り組む。 ② 模範唱を聴き、全体像をつかむ。 ③ パート練習をする。 ④ 曲想と歌詞の関わりを見つけ、表現の工夫を考える。 ⑤ 表現するために必要な技能を身につける。	・ 練習で活用できる音源や動画を Classroom から視聴できるようにしておく。 練習をする前に全体像を把握することで、各声部の役割を理解させる。（１年次の学びの応用）Ⓑ ・ Jamboard を活用して、考えをまとめさせる。 他者参照をすることで考えをより深めさせる。Ⓐ 困りごとをリアルタイムに解決することができ、学びを深めようとする欲が高まる。Ⓐ 発声の基礎と関連づけることで、歌詞に適した声色で歌う技能を身につける。Ⓑ



音とり関係	音がとれない	→	音がとれない悩みを解決するための第一歩です	楽譜を確認しよう
			今の状態がよくわかるための方法です	自分の声をよく聴こう
			音とりに関する悩みだけでなく発声もよくなる方法です	ハミングで直そう
発声関係	声が響かない		よく響く声をつくる方法です	響きを上げよう
	高い声が出ない		自然と丹田を使えるようになる方法です	高い声を出そう
合わせ関係	そろわない	→	これができるとハーモニーまで美しくなる…かも？	リズムをそろえよう

↑ Classroom に掲載したお助けシート

↑ 参考動画

↑ 練習風景

第四～六時

全体の響きのまとまりを感じ、豊かな響きのある声で合唱する。

・　各パートの立てた練習計画にそって進める。

【例】

①　発声練習に取り組む。

②　合唱する。（録音）

③　録音を聴き、課題を見つける。

合唱　パートチェックリスト

チェックリストを活用してパートの現在の状況を確認し、課題を見つけよう

分野		内容	評価①	評価②
【土台】	1	自分のパートを覚える	B　伴…	A　他…
	2	歌詞を覚える	B　ち…	A　見…
【発声】	1	丹田を意識する	B　吸…	A　芯…
	2	左右の眉の間を意識する	B　頬…	B　頬…
	3	「が」行を鼻濁音で発音する	B　「ん…	B　「ん…
【表現】	1	自分の好き	A　曲…	A　曲…
	2	状況や場面、情景などが説明できる	A　曲…	A　曲…
	3	楽譜を読み込む	C　歌…	C　歌…
	4	自分の工夫	A　表…	A　表…

・　タブレット端末で録音して、自分たちの演奏を振り返らせ、課題を見いださせる。

チェックリストを活用し、単元の課題にそった現状の課題に気づかせる。Ⓑ

必要に応じてパートリーダー会をもち、課題を解決する方法を模索させる。Ⓐ

「アルトが主旋律だから、声色や発音もらかくした方が全体にまとまりが出そじゃない？」

④　部分練習をする。

⑤　合唱する。（録音）

⑥　録音を聴き、課題について検証する。

Ⓐ　主体的・協働的な活動 成果と課題

＜成果＞

１年次の課題を踏まえ、パートを編成する際には、リーダー性をもった生徒を中心に考えるように促し、生徒自身に考えさせた。そうすることで、円滑な活動ができたことはもとより、どの生徒も純粋に音楽に没頭することができた。また、課題を解決する場面で、チェックリストやお助けシートを活用させたことで、練習が滞ることなく行うことができたため「もっとよりよくしたい」と、学習意欲を高めることができた。

＜課題＞

単元の課題にそった学習ができるように足場がけをしたことで、どのパートも同じ方向を向いて学習を進めることができた。今後は、足場がけを徐々に減らし、自ら課題解決の方法を見いだせるようにさせていく必要がある。

Ⓑ　基礎的な知識・技能の習得 成果と課題

＜成果＞

１年次の課題を踏まえ、習得させたい知識・技能を明確にし、より具体的に課題として示した。合わせて、参考資料も厳選したことで、どの生徒も確実に習得することができた。また、動画の参考資料については、できるだけ要点を絞り、短くまとめたものにしたことで、集中して視聴し、自分たちが歌っている曲で実践する時間を多く確保することができ、技能の向上が見られた。

＜課題＞

参考資料を上手に活用できたことで、音色やテクスチュアに関する知識・技能は習得することができた。しかし、歌詞と音楽との関係性から表現の工夫につなげることはできなかったため、提示する課題を吟味する必要がある。

２年間の実践を通して

シンキング・サイクルに基づいた個別最適な学習スタイルが、生徒たちの学習意欲をかき立てることが分かった。また、ICT を用いることで、他者の意見を取り入れたり、より多くの視点で考えたりすることにつながった。今後は、自ら課題を設定して解決できるようにさせると共に、歌詞と音楽の関係性を見いだしたり、作曲者の意図を考えたりしながら、表現の工夫を考えさせ、音楽により親しめるようにさせていきたい。

6　研究の成果と課題

⑴　成果

Ⓐ　【主体的・協働的な活動】について

自ら課題を設定し、解決に向けて主体的・協働的に活動させることで、音楽を創り上げる楽しさや、みんなで一つのものを創り上げる楽しさを味わわせることができた。さらに、考えや思いを共有するだけにとどまらず、他者のもつ多様な考えを認め、音楽に対する新たなイメージをひろげたり深めたりする姿を見ることができた。また、シンキング・サイクルにそった学びにおいて、生徒が自ら主体的に学ぶ様子が見られ、音楽の授業にとどまらない、学習者としての成長も垣間見ることができた。

この活動を通して、生徒たちに学ぶ意欲の高まりや学習の広がりを引き出すことができ、より多くの知識や技能を身につけたいという思いを引き出すことができた。

Ⓑ　【基礎的な知識・技能の習得】について

年度はじめの段階において、学習の進め方や音楽を形づくっている要素を指導したことは、生徒たちに音楽の見方・考え方を働かせて音楽活動に取り組ませるための有効な手だてであった。また、音楽を形づくっている要素を精選して提示したり、課題や学習の手がかりの示し方を工夫したりすることにより、習得すべきことが明確となり、基礎的な知識・技能を確実に習得させることができた。

⑵　課題

基礎的な知識・技能の習得には、継続的な反復練習が必要である。今回の成果をもとに、表現領域に留まらず、鑑賞領域での手だてを今後も研究していくことが求められる。

7　研究を通して

私は、生徒たちに主体的・協働的な活動の中で、基礎的な知識・技能を習得させ、意欲の高まりや学習の広がりを引き出したりすることができる音楽の授業を目指してきた。

「主体的・協働的な活動」をさせることで意欲が高まり「基礎的な知識・技能の習得」がなされ、達成感や成就感が生まれることで、学習の広がりが引き出されることを考えていた。このシンキング・サイクルにそったスパイラルこそが意欲の高まりや学習の広がりを引き出されたりした状態であり、生徒たちが授業の中で輝くことにつながることが分かってきた。

このつながりは、義務教育９年間で終わるものではなく、自分たちから進んで音楽と関わり、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育む生徒を育てていきたい。